奈良・平城宮・京跡

1 所在地　奈良市佐紀町・北新町・杏町・西ノ京町

2 調査期間　平城宮南面大垣東端地区　一九八四年（昭59）三月～七月、同朱雀門東北方地区　一九八四年七月～一一月、左京八条一坊三・六坪　一九八四年八月～一〇月、薬師寺跡　一九八五年一月～四月

3 発掘機関　奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部

4 調査担当者　岡田英男

5 遺跡の種類　宮殿・官衙跡、都城跡

6 遺跡の年代　奈良時代～平安時代初期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一　南面大垣東端地区（第一五五次調査）

調査区は第三二次調査区と第三二次補足調査区とに接している。発見された主な遺構は、南面大垣とその北側の東西溝、二条大路とその南北両側溝、及び平城宮内の東辺を北から南へ流れる基幹排水路、及び二条大路北側溝と前述東西溝とをつなぐ南北溝等々である。

このうち、木簡が出土したのは南面大垣北側の東西溝ＳＤ四一〇〇、南北基幹排水路ＳＤ三四一〇、二条大路北側溝ＳＤ一二五〇、この北側溝とＳＤ四一〇〇とをつなぐ南北溝ＳＤ一一六四〇である。

ＳＤ四一〇〇は第三二次補足調査でも発掘し、多量の木簡が出土している。今回はその西の延長部分を約六〇ｍにわたって発掘した。溝の堆積土はＡ～Ｃ期の三層にわけられる。Ａ期の溝は大垣から北へ心々で五・三ｍの所を東流し、Ｂ～Ｃ期は約一ｍ南へ移る。幅は一～二ｍ、深さは〇・五ｍ前後である。このうち木簡は最下層のＡ期の堆積土からすべて出土した。木簡は計六九点を数える。六九点の木簡のうち一点が調査区中央付近から出土しているのを除くと、他はすべて調査区西端付近で、南北溝ＳＤ一一六二〇と接している地点の溝の北壁に接した溜り状の凹みからみつかっている。

南北溝ＳＤ一一六四〇は、調査区の中央付近で、東西溝ＳＤ四一〇〇から南へ流れてＳＤ一二五〇に流れ込んでいるもので、南面大垣の東端から約五〇ｍ西の位置にある。幅は約三ｍ、深さ約〇・八ｍで、東西両岸に護岸の杭をうつ。溝の堆積土は一層である。木簡は大垣の下、及びその南約五ｍの溜り状の部分からまとまって出土した。合計一一九八点である。ＳＤ一一六四〇と南面大垣との交点の土層は、下からＳＤ一一六四〇の堆積土、その埋土、南面大垣の築地土、築地の崩壊した土の順序で堆積しており、ＳＤ一一六四〇にともなう暗渠の痕跡はみとめられなかった。したがってＳＤ一一六四〇が使用されていた期間には、南面大垣が同溝の上には存在しなかった可能性が高い。もっとも南面大垣の造営・改修などの過程については、今後の検討課題である。

二条大路北側溝ＳＤ一二五〇は南面大垣の南約一二ｍのところを西から東へ流れる溝である。第三二次、第一二二次、第一三〇次、第一三三次、第一四三次等の調査で発掘され木簡がそれぞれの地点でみつかっている。幅四ｍ、深さ〇・九ｍの素掘りの溝で約九〇ｍにわたって発掘した。堆積土は二層にわかれ、木簡は下層から溝の各所に点在する状態で出土した。合計一〇〇点を数える。

南北溝ＳＤ三四一〇は、第二二次南、第二九次、第三二次、第三二次補足、第一五四次等の調査で発掘しており、それぞれ木簡が出土している。今回は調査区の東端で約六ｍ分検出した。南流してＳＤ一二五〇に注いでいる。幅は九ｍで、深さ一ｍ、大型の石が散乱している。溝の堆積土は二層に大別され、木簡は上層の堆積土の方から出土している。上層の堆積土からは「富寿神宝」や糸切底の須恵器の壺が出土しており、九世紀前半の堆積と考えられるが、木簡自体の埋没年代については明白な判断はできなかった。出土木簡は一〇六点である。

二　朱雀門東北方地区（第一五七次調査）

調査区は第一次朝堂院の南方、朱雀門の東で南面大垣の北に接する地区で、東西二区にわかれる。みつかった主な遺構は、掘立柱塀三条、掘立柱建物二棟、南北溝二条、土壙一基などである。このうち木簡が出土したのは南北溝ＳＤ三七一五である。

南北溝ＳＤ三七一五は第四一次、第七七次、第九七次、第一〇二次、第一三三次、第一五〇次等の調査でも発掘され、木簡も出土している。これまでの発掘結果からは、この溝は霊亀年間から平安初期まで存続したものであることが判明している。幅七ｍ、深さ一・八ｍを測る。この調査区での堆積土は三層に分れ、木簡は中・下層から出土している。木簡中年紀を記しているものは、天平宝字四年（七六〇）と宝亀八年（七七七）であり、伴出土器のほとんどは奈良時代末期のものである。なお上層は宮廃絶後の堆積と考えられる。

三　左京八条一坊三・六坪（第一六〇次調査）

発掘調査は八条一坊の条間小路とその南に接する三・六坪及びその坪境小路の周辺で行った。検出された遺構は、八条条間小路と三・六坪の坪境小路の東側溝、及び坪の南部では、掘立柱建物四七棟、池状遺構一、井戸一基等である。木簡としては、坪境小路の上を南流する室町時代の河川から木製板五輪卒塔婆一点が出土した。なお、六坪内の掘立柱建物ＳＢ三一九〇の身舎西南隅の柱抜取穴から漆紙文書がみつかっている（一七八頁参照）。

8　木簡の釈文・内容

一　南面大垣東端地区

東西溝ＳＤ四一〇〇

(1)　・「散位寮召　使部□□□□□
　　日置□

・「為□□□
□　(152)×42×5　019

(2)
・考文六巻
・　□三番　(112)×23×3　081

(3)
□□□　考文七巻　(156)×(18)×4　081

(4)
・「下等　兵部省使部従八位下□□年六十右京上日百□」
・「　□奉□少　□」　270×28×10　015　*

(5)
×海郷□屋里戸主忌部□□
忌部□×□□□□　(324)×25×4　081

南北溝SD一一六四〇

(6)
・「出羽国郡司考□」（軸木口）
・「神亀五年　」　295×16(直径)　061

(7)
・「〈多禮嶋考六巻状六巻」
・「〈三番　」　115×24×7　032　*

(8)
・「〈神亀二年諸司工長考文」
・「〈末了(ヤマ)　」　132×24×10　032　*

(9)
恪勤匪懈善　楊□　091

(10)
・「肥後国第三益城軍団養老七年兵士歴名帳」（軸木口）
・「肥後国第三益城軍団養七年(ヤマ)兵士歴名帳　」　320×22(直径)　061　*

(11)
八考日　091

(12)
四考例経二　091

(13)
一資銭　091

(14)
河内国古市郡□〔人カ〕　091

(15)
・「〈　位□〔子〕　□茨田宿祢多比□
・「〈五□□〔百文カ〕　神亀四年料輸神亀□×　(111)×26×3　039

(16)
・「進上牝瓦二百枚　(穿孔)。」
・「三年四月十六日主典田辺史(穿孔)。」　153×27×3　011　*

(17)
・「〈備中国手田郡大飯郷新□里庸米　」
・「〈四斗五升田中里一斗五升右二村一俵」　219×23×6　033

以上のSD四一〇〇とSD一一六四〇との木簡は内容的にも類似するところが多い。とくに考課関係の木簡がふくまれていること、年紀のあるものは霊亀～神亀にかぎられ、荷札は郷里制施行期間のものにかぎられることなどがそれである。なお軸木口と注記をした二点は題籤として使用されたもので、遺品としては東南院文書中の天平勝宝八歳と九歳の越前国田券についているものが三例ある。出土例としては平城宮内から第一一八―二二次調査のSD四〇〇六、第一二九次調査のSD二七〇〇、等で出土している。

南北溝SD三四一〇

(18) 「□□ 庁用間食参升依□□□□ □ 不□」 190×(22)×4 081

(19) 「残飯一斗」 (92)×19×3 019

(20) □少属□□ (47)×(6)×3 081

二条大路北側SD一二五〇

(21) ・「内参入舎人 阿曇千嶋 丹比足角」
・「大伴廣国 品遅国前 君子少依 海□□〔品カ〕」 154×30×5 011 *

(22) 「左京□〔職カ〕 中上 東市正□」 091

(23) ・「〈二番」
・「〈二番」 106×15×7 032

(24) □牒□字□ 091

(25) 「軽マ造法末呂年廿四高五尺六戸主軽マ造万呂道守臣蓑麻呂年廿七右□」 091

(26) □□秦人□ 091

(27) ・「〈播磨国揖保郡林□郷〔田カ〕」
・「〈 林里鴨 」 135×19×5 033

(28) ・「〈美作国勝田□□郡飯カ岡□」
・「〈 米六斗 」 174×26×3 033

(29) ・「美作国勝田郡 」
・「新野郷庸米六斗」 141×25×6 011 *

(30) 「〈美作国勝田郡川辺郷庸米六斗」 156×15×4 032 *

(31)
・×郷□江里〈」
・×人庸六斗〈」　(74)×14×5　039

(32)
「栗栖郷□□」　152×20×5　051

二　朱雀門東北方地区

南北溝SD三七一五

(1)
「天平宝字四年□□史□考状」（軸木ロ）　315×22(直径)　061

(2)
「宝亀八年三月十六日正六位上□　(134)×(27)×2　081

(3)
・「外兵庫
　勅旨省
・「廣人□　(47)×25×3　081

(4)
「去出
　蔭孫□　(74)×35×8　015　*

(5)
番上〔選カ〕□□　091

(6)
「細工所請合□□　(114)×(25)×5　081

(7)
×守王
×内王　(40)×20×3　081

(8)
・
勝　錦　河　茨　秦　従　守　従　従　河
高　橋　内　城　忌　八　□　七　七　内
部　連　□　□　寸　上　□　下　上　国
連　□　□　□　田　□〔秦カ〕　□　美　六
□　稲　□　□　次　寸〔忌カ〕　□　努　位
×　連　□　□　×　□〔水カ〕　日　連　上
×　□　□　得　×　□　佐　嶋　三
　　綱　×　　　×　　×　×　×　国
・
×　×　×　×　×　×　×　×　×　×
×　×　□　□　□　□　□　□　□　□
今　千　黄　出　飽　鴨　六　高　秦
　　文　雲　浪　瀦　人　人　向　忌
　　貴　　　　　部　　　調　寸
　　　　　　　　　　　　　　　　　　(154)×(39)×2　081　*

(9)
・「付　請飯壱□〔斗カ〕弐升　」
・「菜択二人　五月二日秦千□」　192×(17)×2　081　*

(10)
・□□□　□□〔山階カ〕豊人
　□□□□〔省カ〕マ万呂合三人受廣
　□□□□「□　□」」
・□□十三日史生額田□長三升　」　(233)×(22)×3　081
　〔月カ〕

(11)
「内〔堅〕□　48×11×5　021

(12)
□尺伍寸　内舎人佐伯『老』（曲者）　(172)×(20)×4　081　*

(13)
・橘戸東人　□□
・　□□□□□　(94)×18×2　081

(14)
・　従六位下尺度忌寸人□
・□□□□安麻呂　(126)×(12)×3　081

(15)
・□□□〔錦カ〕部連『□』
・右依少録勤□　(148)×(14)×4　081

なお、薬師寺跡出土木簡は近世のもので、回廊西南隅の西側の池跡で発見されたが、遺構の概要、釈文等は省略した。

9　関係文献

奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報一九八五』（一九八五年）

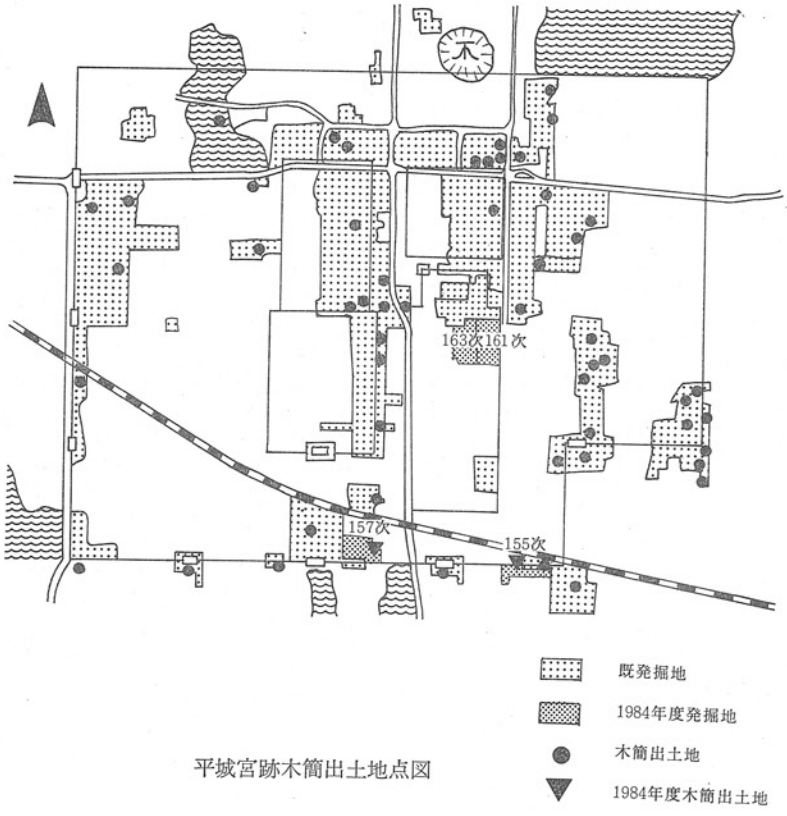
同『昭和59年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』（一九八五年）

同『平城宮発掘調査出土木簡概報十八』（一九八五年）

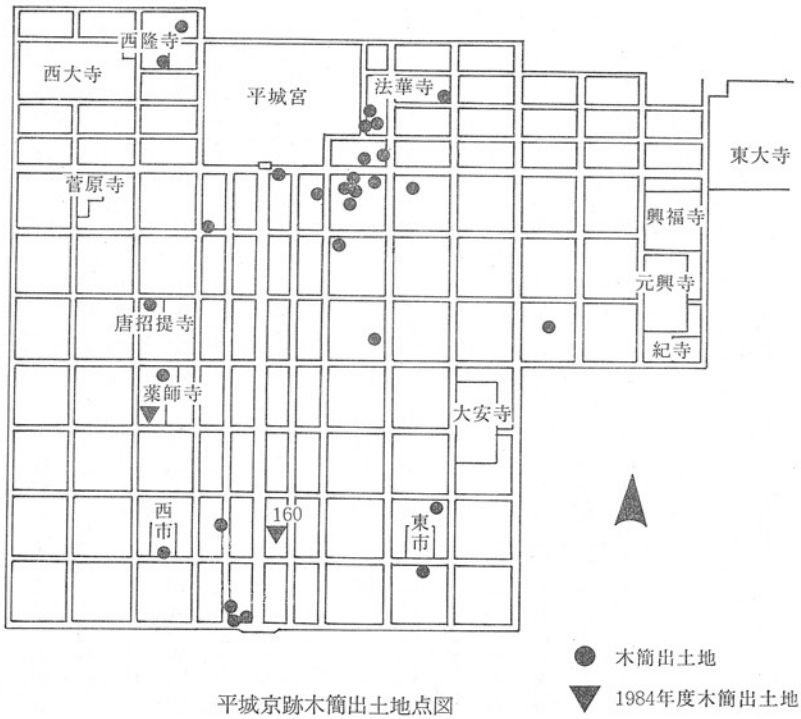
岡田英男「昭和五十九年度平城宮跡発掘調査」（『奈良県観光』三四五号　一九八五年）

館野和己「昭和五十九年度平城宮跡の発掘調査」（同右）

（鬼頭清明）



平城宮跡木簡出土地点図



平城京跡木簡出土地点図

奈良・平城京跡

1 所在地　奈良市法華寺町・芝辻町・四条大路

2 調査期間　平城京左京二条二坊十二坪・二条大路　一九八四年（昭59）七月～一二月、左京一条三坊十二坪　一九八四年一一月、左京四条二坊七坪　一九八四年一〇月～一一月、左京三条三坊九坪　一九八四年九月

3 発掘機関　奈良市教育委員会

4 調査担当者　西崎卓哉・篠原豊一・立石堅志・奈良美穂

5 遺跡の種類　都城跡

6 遺跡の年代　奈良時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一　平城京左京二条二坊十二坪・二条大路

本遺跡では、さきに十二坪西半部から二条大路にわたる地域の調査を行っており、その成果はすでに報告した（『木簡研究』第五・六号）。今回の調査は十二坪東半部からわずかに二条大路にかかる地域を対象として行った。両調査区をあわせて四五二〇㎡、十二坪の三分の一ほどを発掘したことになる。

今回検出した主な遺構は二条大路の一部とその北側溝・築地塀・